

平成 25 年度（2013 年度）
事業計画書

目 次

はじめに.....	1
1. 環境認識.....	1
2. 基本方針.....	1
3. 事業別基本方針.....	2
I. 競技会事業（公益目的事業 1）.....	4
【平成 25 年度の計画概要】.....	4
1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）.....	5
2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）.....	7
3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）.....	8
4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）.....	8
II. 普及事業（公益目的事業 2）.....	9
【平成 25 年度の計画概要】.....	9
1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）.....	10
2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）.....	12
3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）.....	13
4. 広報（公益目的事業 2.4）.....	14
5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）.....	16
III. 国際交流事業（公益目的事業 3）.....	17
【平成 25 年度の計画概要】.....	17
1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）.....	18
2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）.....	18
3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）.....	20
4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）.....	20
IV. 収益事業等.....	21
【平成 25 年度の計画概要】.....	21
1. 公認（収益事業等 1）.....	21
2. 商品販売（収益事業等 2）.....	22
V. 管理部門.....	23
【平成 25 年度の計画概要】.....	23
1. 会員・会友.....	23
2. 組織運営.....	23
3. 企画委員会・センター協議ワーキンググループ.....	23

はじめに

1. 環境認識

(1) 外部環境

平成 24 年 12 月総選挙の結果、第二次安倍内閣が発足し、経済金融政策が成長戦略に大きく転換したことで日本国内では景気回復への期待感が高まっているものの、依然として経済の先行き不透明感が高い。また、平成 24 年夏には消費税増税法案が国会で可決され、経済状況の好転を前提に、消費税率を平成 26 年 4 月 1 日に 5%から 8%へ、翌 27 年 10 月 1 日に 8%から 10%へと二段階で上げることが決定している。

他方、日本の高齢化傾向は継続しており、内閣府の「平成 24 年度版高齢社会白書」によると、2011 年（平成 23 年）10 月時点での 65 歳以上の高齢者が総人口に占める割合（高齢化率）は 23.3%（前年 23.0%）、2055 年には 40.5%に拡大すると予想される。

厳しい経済環境や社会の高齢化傾向は今後も持続すると予想され、人々の余暇活動や当連盟の運営にも影響するものと見られることから、本年度も引き続き事業運営の効率化を図りつつ、厳しい外部環境に対応していく必要がある。

(2) 内部課題

消費税率引き上げを次年度に控えていることから、その影響を様々な視点から検討し、必要に応じて公認料率や参加料等の見直しを図る必要がある。

福岡ブリッジプラザが本年 4 月に当連盟から独立することに伴い、現在、九州・福岡地区における普及活動、九州支部の位置づけ、及びその活動内容の見直しを行っている。これまでの活動の成果と反省点を活かし、より効果的かつ地元のブリッジ愛好者に資する体制作りが肝要である。

2. 基本方針

以上の状況を踏まえ、本年度は次の 3 点を軸に事業活動を行う。

- 引き続き業務執行体制の強化と公益に資する事業運営に努める。具体的には、平成 24 年度に事業部ごとに策定した中期計画あるいは方針に沿って計画的に事業を実施する。また、公益に資するという観点から、公認料率や参加料等の見直しについても検討を進める。
- 設立以来の課題であった福岡ブリッジプラザの独立に伴い、同プラザの事業立ち上げ活動を支援するとともに、九州地区における普及活動は地方活性化支援その他一般事業の中で対応する。
- 本年度は当連盟設立 60 周年の節目に当たるため、記念事業として記念大会を開催する。一方未来への財産として、これまでの活動を整理し記録を保管していくことにも着手する。

3. 事業別基本方針

(1) 競技会事業（公益目的事業 1）

- NECブリッジフェスティバルを含め、主催競技会の運営においては、世界各国から高い評価を受けている大会運営ノウハウを生かして質の高い競技会の提供に努めるとともに、担当ディレクターや参加者からの意見やニーズを収集して問題点や課題の把握に努め、迅速に対応していく。
- 中長期的な課題として、引き続きよりよい競技機会を広く提供するために競技会の内容の見直しと競技会参加者に対するサービス向上を図る。
- 競技会運営管理システムの整備・改善に努める。競技会運営ソフト（JTOS）の保守を継続し、新バージョンをリリースするとともに、ブリッジメイトシステムの貸与及び導入支援を継続する。
- ディレクター講習会を継続し、競技会運営のレベルアップを図る。本年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施する。

(2) 普及事業（公益目的事業 2）

中期事業計画立案方法の変更に伴い平成 23 年度をもって繰り上げ終了となった第 2 次 5 ヶ年計画の内容と 4 年間にわたる成果及びその間に浮き彫りとなった新たな課題を検証し、平成 24 年度に新たに「普及事業中期計画」を策定した。本年度はこの中期計画で定めた以下の方針に沿って、計画的に事業活動を実施する。

- 20～30 代への普及を最優先とし、ネット上にもブリッジの場を拡げる。20～30 代の興味を喚起して実際にプレイしてもらい、向上心が芽生えてきたら、入門書や講習会などの受け皿で競技会のおもしろさを徐々に伝えてゆき、結果として会友拡大を図る。
- 現会友の中心層をなすシニア世代へは、ブリッジの固定ファンとして定着するよう、豊かなブリッジができる楽しい場を提供する。
- 従来から継続している事業の発展形として元ジュニア、元学生プレイヤーの層に対し、それぞれに応じた最適な場を提供していくことを合わせて検討する。
- 普及のターゲットごとに志向（パズル、ゲーム、勝負事、社交、ブランド、学び、自己実現）を明確にして、まったく縁がない状態から『どこかで見ると何となく知る ⇒ 興味を持つ ⇒ 興味がある ⇒ 参加する』という流れを作る。
- 現在も将来も普及の拠点となるべきブリッジセンターにおける普及活動への支援・助成を拡充する。とりわけ、首都圏における普及活動は、体験教室を数多く開催することより質の高い入門講習会を開催することにシフトし、受講料等を助成することによって『参加しやすくする ⇒ 参加する ⇒ おもしろい・楽しい ⇒ もっとやりたい ⇒ 上達したい』という流れを作る。
- 大阪、名古屋における普及活動は、ブリッジセンター事業を含め、別途検討する。
- 九州における普及活動は、特段の事業を設けず、地方活性化支援その他一般事業の中で対応する。

- その他の地方における普及は、体験教室を数多く開催し、『友人知人がプレイヤー ⇒ 誘われる ⇒ 興味を持つ ⇒ 参加する』という流れを作る。

(3) 国際交流事業（公益目的事業 3）

- 本年度も、国際的な競技会を開催し、ブリッジの普及発展とブリッジを通じた国際交流に努めるとともに、国際競技会運営ノウハウの集積と技術向上をめざす。具体的には、4月にチャイニーズ・タイペイの実業家の葉氏が主催する Yeh Bros 杯の日本開催に協力して運営に当たる。NECブリッジフェスティバルと連続する形で開催することにより、シナジー効果や費用対効果の向上をめざす。
- 中期的な目標としてアジア競技大会でのブリッジ種目採用を掲げ、APBF 加盟国・地域の NBO、特に地域内の有力国・地域である中国、チャイニーズ・タイペイ、韓国との連携を強化し、マインドスポーツとしてのブリッジの普及・発展に努める。

(4) 収益事業等

① 公認事業（収益事業 1）

- 公認事業関連業務の見直しを行い、システム化、効率化を図る。特に、公認ブリッジクラブ及びブリッジセンター主催競技会の公認料制度について、クラブ・センターの代表と協議のうえ、中長期的に双方の事業基盤が強化されるような制度改定をめざす。

② 商品販売事業（収益事業 2）

- 在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(5) 管理部門

- 事務局業務の改善に引き続き取り組み、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- センター協議ワーキンググループを通じてブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方や連盟の支援方法を引き続き検討していく。
- 会友制度の簡素化を図り、誰の目にもわかりやすい制度へ改定する。
- 競技会参加料割引制度の廃止案の検討を継続し、進展する高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。

I. 競技会事業（公益目的事業 1）

【平成 25 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、当連盟自らが質の高い各種ブリッジ競技会を開催することはもとより、ブリッジセンター／クラブまたは個人が開催するものも含め競技会全般の質を維持し、よりよい競技機会を広く提供することを目的とする。この目的に照らして、(1) 競技会の主催、(2) 競技会運営環境の整備、(3) ディレクターの養成の 3 事業を行う。

主催競技会の回数と内容を見直し、本年度はリジョナル 5 競技会をブリッジセンター主催に移管するとともに、リジョナル 3 競技会の開催を中止する。

例年 2 月に開催している NEC ブリッジフェスティバルは、平成 24 年度分を平成 25 年 4 月に開催する。これは、国際交流事業の一環として運営協力する Yeh Bros 杯と同フェスティバルを連続する形で開催することになり、その時期が平成 25 年 4 月に決定したことによる。このため、平成 26 年 2 月の通常開催分と合わせて、本年度は NEC ブリッジフェスティバルを 2 回開催する。

昨年度まで福岡ブリッジプラザを通じて当連盟が主催していた九州地区の競技会は、福岡ブリッジプラザの独立に伴い、本事業から外した。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	60,760,000	70,128,000	-9,368,000	前年度は、福岡ブリッジプラザ分、APBF 福岡大会サイドゲームを含む NECBF は2回分を計上
経常費用	109,574,485	94,979,305	14,595,180	
経常増減	-48,814,485	-24,851,305	-23,963,180	

(3)事業別総括表

事業名	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
1.1 競技会の主催	経常収益	60,760,000	69,507,000	-8,747,000	NECBF2 回分を計上
	経常費用	84,721,035	65,898,605	18,822,430	
	経常増減	-23,961,035	3,608,395	-27,569,430	
1.2 競技会運営環境の整備	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,718,000	1,718,000	0	
	経常増減	-1,718,000	-1,718,000	0	
1.3 ディレクターの養成	経常収益	0	0	0	
	経常費用	738,000	842,000	-104,000	
	経常増減	-738,000	-842,000	104,000	
1.9 管理費	経常収益	0	621,000	-621,000	福岡ブリッジプラザの独立に伴い、同プラザ分が減
	経常費用	22,397,450	26,520,700	-4,123,250	
	経常増減	-22,397,450	-25,899,700	3,502,250	

【事業別計画】

1. 競技会の主催（公益目的事業 1.1）

(1) 計画概要

本年度は以下の競技会を主催する。昨年まで連盟が主催していた九州地区競技会は、福岡ブリッジプラザ独立に伴い同プラザに主催権を移管する。

① 主催競技会（詳細は次ページ表を参照）

- ・ ナショナル及びリジョナル競技会、日本リーグ、社会人リーグを開催する。
- ・ 本年度よりリジョナル競技会の一部をブリッジセンターに順次移管していくことになった。本年度は、モンタルト杯、萩原杯、服部杯、新年リジョナル、春季リジョナルの 5 競技会をセンター主催に変更する。また、丸の内杯、夏季シニアペア、夏季シニアチームの 3 競技会の開催を中止する。
- ・ 地方からの参加者に対する交通費・宿泊費助成、前年度優勝者招待を継続する。

② NEC ブリッジフェスティバル(I)

- ・ 平成 24 年度分を Yeh Bros 杯と連続する日程で平成 25 年 4 月に開催。世界最高水準である Yeh Bros 杯招待チームの参加もあり、過去最高水準の大会になる見通し。
- ・ 海外から 8 チーム、国内から 3 チームを招待する。
- ・ Biglobe シリーズの開催期間を 2 ヶ月延長し、12 月末時点での上位 12 名及び地方在住の上位 4 名に加えて、2 月末時点での上位 6 名を飛鳥杯に招待する。

③ NEC ブリッジフェスティバル(II)

- ・ 平成 26 年 2 月に本年度分の NEC ブリッジフェスティバルを開催する。
- ・ 海外から 8 チーム、国内から 3 チームを招待する。
- ・ Biglobe シリーズ上位 12 名及び地方在住の上位 4 名までを飛鳥杯に招待する。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	60,760,000	69,507,000	-8,747,000	NEC ブリッジフェスティバルを 2 回開催
経常費用	84,721,035	65,898,605	18,822,430	
経常増減	-23,961,035	3,608,395	-27,569,430	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)主催競技会	縮小	経常収益	38,800,000	51,948,000	-13,148,000	リジョナル 5 競技会をブリッジセンターに移管
		経常費用	36,455,295	41,103,555	-4,648,260	
		経常増減	2,344,705	10,844,445	-8,499,740	
(2)NEC ブリッジフェスティバル(I)	拡大	経常収益	11,880,000	10,900,000	980,000	平成 24 年度分 Yeh Bros 杯と連続する日程で開催
		経常費用	24,421,300	23,864,850	556,450	
		経常増減	-12,541,300	-12,964,850	423,550	
(2)NEC ブリッジフェスティバル(II)	前年度並み	経常収益	10,080,000	0	10,080,000	平成 25 年度分
		経常費用	23,844,440	0	23,844,440	
		経常増減	-13,764,440	0	-13,764,440	
(3)九州地区福岡 BP 主催競技会	中止	経常収益	0	6,014,000	-6,014,000	福岡ブリッジプラザの独立に伴い、本事業から除外
		経常費用	0	850,200	-850,200	
		経常増減	0	5,163,800	-5,163,800	
(3)九州地区 APBF サイドゲーム(平日開催分)	中止	経常収益	0	645,000	-645,000	前年度限り事業
		経常費用	0	80,000	-80,000	
		経常増減	0	565,000	-565,000	

JCBL 主催競技会開催予定表

競技会名	日 程	開催日数	場 所	予定卓数
1) ナショナル競技会(全国大会)				
全日本地域対抗戦選手権 (関東予選)	5月11、12、18、19日	4日	四谷 BC	118
全日本地域対抗戦選手権 (決勝)	8月3、4日	2日	グランドホテル 浜松	30
藤山杯(予選・決勝)	7月6、7日	2日	四谷 BC / 高田馬場 BC	120
外務大臣杯(予選・決勝)	8月24、25日	2日	四谷 BC	58
高松宮記念杯	9月14、15、16、21、22日	5日	四谷 BC / 五反田 BS	106
全日本女子ペア選手権 (予選・決勝)	9月28、29日	2日	四谷 BC	92
高松宮妃記念杯(予選・決勝)	11月2、3日	2日	四谷 BC	92
NISSAN ブルーリボン杯	12月23日	1日	四谷 BC/五反田 BS/名古屋 BC/ 大阪 BC	104
エンゼル・レッドリボン杯	12月23日	1日	四谷 BC/大阪 BC	44
朝日新聞社杯	1月11、12、13日	3日	四谷 BC/五反田 BS /高田馬場 BC	160
2) 日本リーグ				
1部	前期：6月・7月、 後期：12月・1月	各4日	四谷 BC	16
2部		各4日	四谷 BC	24
3) リジョナル競技会				
柳谷杯(決勝)	4月6、7日	2日	四谷 BC/五反田 BS/高田馬場 BC	136
サントリー杯	4月29日	1日	四谷 BC/横浜 BC/名古屋 BC/ 大阪 BC	124
井上杯	5月25、26日	2日	四谷 BC	64
井上歌子杯	5月26日	1日	四谷 BC	24
渡辺杯	3月22、23日	2日	四谷 BC	58
4) 社会人リーグ				
社会人 IMP リーグ				16

2. 競技会運営環境の整備（公益目的事業 1.2）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

- ① 競技会運営管理システム
 - ・ 競技会集計ソフト（JTOS）の保守・管理を行う。
 - ・ スコア入力システム（ブリッジメイト）の使用法啓蒙活動、導入支援、貸与を行う。
- ② 競技会運営環境の整備と維持
 - ・ 競技会場の確保及び運営設備の維持向上に努める。
- ③ 競技委員会管轄事項
 - ・ 上告審理・裁定、公認コンベンションリストの見直し・改正・公表、ディレクター資格の審議・認定、マスターポイント規則の制定・改正を行う。
- ④ ルール委員会管轄事項
 - ・ 「デュプリケートコントラクトブリッジの規則」及び競技会運営に関わる諸規則・規定の解釈・通知・公表、上告委員会裁定へのさらなる上告の審理・裁定を行う。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,718,000	1,718,000	0	
経常増減	-1,718,000	-1,718,000	0	

(3)事業別総括表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)競技会運営システム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,452,000	1,452,000	0	
		経常増減	-1,452,000	-1,452,000	0	
(2)競技委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	246,000	246,000	0	
		経常増減	-246,000	-246,000	0	
(3)ルール委員会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	20,000	20,000	0	
		経常増減	-20,000	-20,000	0	

3. ディレクターの養成（公益目的事業 1.3）

(1) 計画概要

本年度は以下の事業を実施する。

① ディレクター講習会

- 例年どおり、新人ディレクター育成のための初級ディレクター講習会を、東京で1回、地方で1回開催する。
- ほかに、クラブディレクターを対象とする講習会、及びセクショナルディレクターをめざす方を対象とする講習会を各1回開催する。

② ナショナルディレクター養成プログラム

- 奇数年度である本年度はナショナルディレクター養成プログラムを実施する。
- 現役ナショナルディレクターの技能向上のため、平成 26 年度より認定試験の導入を計画している。今年度はそのための準備作業を行う。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	プログラム実施年
経常費用	738,000	842,000	-104,000	
経常増減	-738,000	-842,000	104,000	

(2)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)ディレクター講習会	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	192,000	192,000	0	
		経常増減	-192,000	-192,000	0	
(2)ナショナルディレクター養成プログラム	前年度並み	経常収益	0	0	0	費用減は実地研修関連費用を実態に合わせて見直したため
		経常費用	546,000	650,000	-104,000	
		経常増減	-546,000	-650,000	104,000	

4. 競技会事業管理（公益目的事業 1.9）

(1) 計画概要

福岡ブリッジプラザの独立に伴い、本年度より地元有志を中心とする新経営者に同プラザの運営管理を全面的に移管する。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	621,000	-621,000	
経常費用	22,397,450	26,520,700	-4,123,250	
経常増減	-22,397,450	-25,899,700	3,502,250	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
管理費 競技会事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	22,397,450	22,780,600	-383,150	
		経常増減	-22,397,450	-22,780,600	383,150	
管理費 福岡 BP 競技会	中止	経常収益	0	621,000	-621,000	福岡 BP の独立に伴い、終了
		経常費用	0	3,740,100	-3,740,100	
		経常増減	0	-3,119,100	3,119,100	

II. 普及事業（公益目的事業 2）

【平成 25 年度の計画概要】

(1) 計画概要

本事業は、ブリッジのことをよく知らない人々の興味・関心を高め、また、あらゆる年齢層のブリッジに対する理解及び技量の向上を促すことにより、マインドスポーツとして文化・スポーツの両方の側面を有するブリッジの普及を図り、児童・青少年の健全な育成、国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与することを目的とする。具体的には、(1) 体験イベントの開催、(2) 講習会等の開催、(3) 他の団体等による体験イベント・講習会等の実施支援、(4) ブリッジ普及のための広報及びツールの作成・配布の 4 事業を行う。

本年度は、「普及事業中期計画」に基づいて、従来から継続して実施している事業の規模を一部見直し、新たに以下の新規事業に着手する。本年度の新規事業の一部は試行段階とするが、年度後半からは来年度に向けて事業が軌道に乗るよう注力する。

新規事業

- ・ プレイヤーズサロンの開設（公益事業 2.2）
- ・ ブリッジセンター普及活動支援（センターと共同での普及活動）（公益事業 2.3）
- ・ ネットブリッジの試作（公益事業 2.4）
- ・ 普及に関わる JCBL 公認資格制度の確立（公益事業 2.9）

なお、福岡ブリッジプラザの独立に伴い、これまで同プラザ及び九州支部が主催していた九州地区における普及事業は同プラザに移管する。

(2) 収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	2,548,000	4,494,200	-1,946,200	
経常費用	62,252,200	76,742,654	-14,490,454	
経常増減	-59,704,200	-72,248,454	12,544,254	

(3) 事業別総括表

事業名	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
2.1 体験イベントの開催	経常収益	1,433,000	1,663,000	-230,000	事業規模見直しにより費用減
	経常費用	4,295,700	8,182,400	-3,886,700	
	経常増減	-2,862,700	-6,519,400	3,656,700	
2.2 講習会等の開催	経常収益	0	1,879,200	-1,879,200	事業規模見直しにより費用減
	経常費用	2,160,000	4,245,721	-2,085,721	
	経常増減	-2,160,000	-2,366,521	206,521	
2.3 体験教室・講習会等の実施支援	経常収益	400,000	192,000	208,000	
	経常費用	13,690,000	13,526,000	164,000	
	経常増減	-13,290,000	-13,334,000	44,000	
2.4 広報	経常収益	715,000	715,000	0	減少分は主に前年度に実施した単発事業分 普及イベント縮小
	経常費用	11,471,200	18,157,200	-6,686,000	
	経常増減	-10,756,200	-17,442,200	6,686,000	
2.9 管理費	経常収益	0	45,000	-45,000	福岡ブリッジプラザの独立に伴い、同プラザ分が減
	経常費用	30,635,300	32,631,333	-1,996,033	
	経常増減	-30,635,300	-32,586,333	1,951,033	

【事業別計画】

1. 体験イベントの開催（公益目的事業 2.1）

(1) 計画概要

ブリッジをよく知らない人々を対象に、気軽に参加でき、ブリッジに対する興味・関心を高め
てもらうための各種体験イベントを実施する。

- ① 文化・教育関連イベント出展
 - ・ 国民文化祭山梨（11月）
 - ・ 霞が関子ども見学デー（8月）
 - ・ 関西ジュニアペア碁大会（8月）
 - ・ 日本棋院中部総本部夏休みジュニアイベント（8月）
 - ・ ゲームマーケット東京（4月、11月）
 - ・ ゲームマーケット大阪（3月）
- ② 一般向け体験イベント
 - ・ NECブリッジフェスティバル（4月、2月）
 - ・ 初心者競技会体験大会（2回開催、場所未定）
- ③ ユース向け体験イベント
 - ・ ユースキャンプ（9月）
- ④ ジュニア向け体験イベント（ジュニアくらぶイベント）
 - ・ 体験教室／入門講習会／練習会／競技会（毎月1回程度）

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	1,433,000	1,663,000	-230,000	事業規模見直しにより費用減
経常費用	4,295,700	8,182,400	-3,886,700	
経常増減	-2,862,700	-6,519,400	3,656,700	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)文化・教育関連イベント出展 国民文化祭	新規(復活)	経常収益	0	0	0	山梨開催
		経常費用	313,200	0	313,200	
		経常増減	-313,200	0	-313,200	
(1)文化・教育関連イベント出展 その他のイベント	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	488,800	584,100	-95,300	
		経常増減	-488,800	-584,100	95,300	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室 (I)	縮小	経常収益	271,000	271,000	0	平成 24 年度分の実施時期を変更(規模見直し)
		経常費用	678,800	1,147,700	-468,900	
		経常増減	-407,800	-876,700	468,900	
(2)一般向け体験イベント NECBF 体験教室 (II)	縮小	経常収益	271,000	0	271,000	平成 25 年度分
		経常費用	678,800	0	678,800	
		経常増減	-407,800	0	-407,800	
(2)一般向け体験イベント 初心者大会の開催	前年度並み	経常収益	260,000	260,000	0	
		経常費用	305,000	313,000	-8,000	
		経常増減	-45,000	-53,000	8,000	

(2)一般向け体験イベント ブリッジを愉しむ会	前年度並み	経常収益	560,000	560,000	0	
		経常費用	730,000	730,000	0	
		経常増減	-170,000	-170,000	0	
(3)ユース向け体験イベント ユースキャンプ	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	502,000	440,000	62,000	
		経常増減	-502,000	-440,000	-62,000	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶ運営	縮小	経常収益	0	0	0	外注分を職員が対応
		経常費用	103,600	1,217,000	-1,113,400	
		経常増減	-103,600	-1,217,000	1,113,400	
(4)ジュニア向け体験イベント ジュニアくらぶイベント	縮小	経常収益	71,000	71,000	0	半日開催に縮小
		経常費用	495,500	734,000	-238,500	
		経常増減	-424,500	-663,000	238,500	
(5)九州地区福岡BP主催体験イベント	中止	経常収益	0	300,000	-300,000	普及事業から独立
		経常費用	0	96,000	-96,000	
		経常増減	0	204,000	-204,000	
(5)九州地区九州支部主催体験イベント	中止	経常収益	0	96,000	-96,000	普及事業から独立
		経常費用	0	376,400	-376,400	
		経常増減	0	-280,400	280,400	
(5)九州地区APBF福岡大会普及イベント	中止	経常収益	0	90,000	-90,000	平成 24 年度単発事業
		経常費用	0	2,371,800	-2,371,800	
		経常増減	0	-2,281,800	2,281,800	
(5)九州地区APBF福岡大会体験イベント	中止	経常収益	0	15,000	-15,000	平成 24 年度単発事業
		経常費用	0	172,400	-172,400	
		経常増減	0	-157,400	157,400	

2. 講習会等の開催（公益目的事業 2.2）

(1) 計画概要

ブリッジに親しみ、理解を深め、技量を向上させるための講習会を開催する。

① インストラクター講習会

- ・ 体験教室や入門講習会の講師を初めて務めるプレイヤーのための講習会開催（下半期 4回）

② ユース向け講習会

- ・ 「ユース育成プロジェクト」の一環としての技術向上支援（通年）
（「ユース育成プロジェクト」の国際大会派遣事業は公益目的事業 3.2）

③ プレイヤーズサロンの開設（新規事業）

- ・ 初心者向けサロン（サロン形式）の開設

既存会員・会友が友人の手を引いて教えながら一緒に遊べる場を作る。従来のサロンと異なり、既存会員・会友が友人である初心者のサポーターとなって、一緒に楽しみ一緒に向上していくことをめざす。下半期から毎月 1 回開催することを目標にする。

- ・ 中級者向けサロン（競技会形式）の開設

平日はプレイする時間が確保できない社会人プレイヤーや、休日のセクショナルは肌に合わないというプレイヤーのための場を作る。従来の夜のウィークリーゲームは試合形式のため時間的な制約があったが、いつ来ていつ帰ってもとりあえずブリッジ（疑似競技会）ができる場をめざす。下半期から毎月 1 回開催することを目標にする。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	1,879,200	-1,879,200	事業規模見直しにより費用減
経常費用	2,160,000	4,245,721	-2,085,721	
経常増減	-2,160,000	-2,366,521	206,521	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)ブリッジインストラクター講習会	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	218,000	149,000	69,000	
		経常増減	-218,000	-149,000	-69,000	
(2)ユース向け講習会 ユース育成 PJ	前年度並み	経常収益	0	0	0	外注分を職員が対応
		経常費用	1,582,000	1,752,221	-170,221	
		経常増減	-1,582,000	-1,752,221	170,221	
(3)ジュニア向け講習会 集中講座	中止	経常収益	0	36,000	-36,000	一般の助成規程で対応
		経常費用	0	296,500	-296,500	
		経常増減	0	-260,500	260,500	
(4)九州地区 福岡 BP 主催講習会	中止	経常収益	0	1,843,200	-1,843,200	普及事業から独立
		経常費用	0	2,048,000	-2,048,000	
		経常増減	0	-204,800	204,800	
(5)プレイヤーズサロン	新規	経常収益	0	0	0	新規事業（人件費助成）
		経常費用	360,000	0	360,000	
		経常増減	-360,000	0	-360,000	

3. 体験教室・講習会等の実施支援（公益目的事業 2.3）

体験教室や講習会等を開催する会員・会友や他の団体等に対して、人的支援、金銭的支援、用具や教材の提供及びノウハウの提供を行う。

(1) 計画概要

原則として申請に応じて助成する。

① 一般支援

- ・ 教室助成（体験教室、入門講習会、カルチャースクール講座、サロン形式実習講座）
- ・ 体験イベント支援、海外クラブ支援
- ・ 地方活性化活動（地方クラブ支援、初心者大会参加費用助成）

② 教育現場におけるブリッジ講座支援

- ・ 大学ブリッジ講座支援（東京大学、早稲田大学、福岡大学、青山学院大学）

③ 学校・学生支援

- ・ 学生クラブの活動支援（部員勧誘活動、クラブ立ち上げ、用具提供）
- ・ 学生クラブによる他大学や他サークルの友人・知人への PR 活動推進支援（費用支給）
- ・ 学生リーグ主催の学生選手権への参加費用助成

④ センター事業支援（新規事業）

- ・ ブリッジセンターが主催する講習会等の受講者に対する受講料の助成
- ・ ブリッジセンターが主催するサロン形式実習講座のフローター人件費の助成

本件は、別途「公認料の見直し（消費税増税への対応を含む）」及び「リジョナル競技会のセンターへの移管」とともに JCBL とセンター間で協議を行い、センターにも利益をもたらす活動とその助成制度を検討する。

(2) 収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	400,000	192,000	208,000	
経常費用	13,690,000	13,526,000	164,000	
経常増減	-13,290,000	-13,334,000	44,000	

(3) 個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1) 普及活動支援 助成規定・海外ク ラブ支援	拡大	経常収益	0	0	0	講習会受講料助成を 追加
		経常費用	5,898,000	4,698,000	1,200,000	
		経常増減	-5,898,000	-4,698,000	-1,200,000	
(1) 普及活動支援 地方活性化支援	縮小	経常収益	0	0	0	一般の助成規程で対 応
		経常費用	1,169,000	2,553,000	-1,384,000	
		経常増減	-1,169,000	-2,553,000	1,384,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座① 東京大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：ロバートゲラー
		経常費用	706,000	706,000	0	
		経常増減	-706,000	-706,000	0	
(2) 学校講座支 援 大学講座② 早稲田大学	前年度並み	経常収益	400,000	0	400,000	講師：清水映樹 (収益は連盟に返納さ れる講師費用分)
		経常費用	1,420,000	1,470,000	-50,000	
		経常増減	-1,020,000	-1,470,000	450,000	
(2) 学校講座支 援 大学講座③ 福岡大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：勝部雅子
		経常費用	1,495,000	1,495,000	0	
		経常増減	-1,495,000	-1,495,000	0	
(2) 学校講座支 援 大学講座④ 青山学院大学	前年度並み	経常収益	0	0	0	講師：島村京子 テキスト作成費削減 アシスタント 2 名増員
		経常費用	1,290,000	1,210,000	80,000	
		経常増減	-1,290,000	-1,210,000	-80,000	

(3)学校・学生の普及活動支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	752,000	632,000	120,000	
		経常増減	-752,000	-632,000	-120,000	
(4)九州地区 インターナショナルエア カデミー講座	中止	経常収益	0	180,000	-180,000	普及事業から独立
		経常費用	0	330,000	-330,000	
		経常増減	0	-150,000	150,000	
(4)九州地区	中止	経常収益	0	12,000	-12,000	普及事業から独立
		経常費用	0	432,000	-432,000	
		経常増減	0	-420,000	420,000	
(5)センター事業 支援	新規	経常収益	0	0	0	新規事業(エントリー フィー助成)
		経常費用	960,000	0	960,000	
		経常増減	-960,000	0	-960,000	

4. 広報（公益目的事業 2.4）

(1) 計画概要

普及のターゲットごとに最適な広告メディアを選定して PR 活動やプロモーション活動を行う。またブリッジのことをよく知らない人々に向けた入門レベル教材や入門書を制作する。

① 広報宣伝活動

- メディア広告など JCBL すべての事業を広く世間にアピールするための PR 活動（随時）
- 地域イベント参加やブリッジ図書寄贈など特定ターゲットを対象にした PR 活動（随時）
- 体験教室や入門講習会の受講者の来場を促進するためのプロモーション活動（随時）

② 出版物の刊行

- 入門レベル教材の改訂（上半期中の改訂版発行を目標にする）
- 入門書の制作・出版（年度中の発行を目標にする）

③ ウェブサイト

- 「普及通信」ウェブ版の定期更新（隔月）

④ 広報ツールの作成・配布

- 初心者大会用賞品、普及・会員サービスに活用可能なグッズの製作または購入（随時）
- 広報パネル、パンフレットなど広報ツールの企画・開発（随時）

⑤ ネットブリッジの試作

- コンピュータ相手に対戦可能なゲームサイトの立ち上げ（上半期中の稼働を目標にする）
- チュートリアル作成（年度中の稼働を目標にする）

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	715,000	715,000	0	
経常費用	11,471,200	18,157,200	-6,686,000	
経常増減	-10,756,200	-17,442,200	6,686,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)広報宣伝活動	縮小	経常収益	715,000	715,000	0	普及イベント縮小 前年度実施認知度調査分減
		経常費用	7,730,000	10,705,000	-2,975,000	
		経常増減	-7,015,000	-9,990,000	2,975,000	
(1)広報宣伝活動 「2012APBF 福岡大会」新聞特集	中止	経常収益	0	0	0	平成 24 年度単発事業
		経常費用	0	3,545,000	-3,545,000	
		経常増減	0	-3,545,000	3,545,000	
(2)出版 入門コース教材作成	前年度並み	経常収益	0	0	0	出版に伴う編集・デザイン等費用を計上
		経常費用	2,168,000	2,104,000	64,000	
		経常増減	-2,168,000	-2,104,000	-64,000	
(3)ウェブサイト JCBL ウェブサイトの運営	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	316,000	316,000	0	
		経常増減	-316,000	-316,000	0	
(3)ウェブサイト 普及通信の編集発行	縮小	経常収益	0	0	0	職員稼働(管理費)
		経常費用	91,200	211,200	-120,000	
		経常増減	-91,200	-211,200	120,000	
(4) 広報ツールの作成・配付	前年度並み	経常収益	0	0	0	縮小
		経常費用	1,066,000	1,276,000	-210,000	
		経常増減	-1,066,000	-1,276,000	210,000	
(5)ネットブリッジの試作	新規	経常収益	0	0	0	ソフトウェア改造費用
		経常費用	100,000	0	100,000	
		経常増減	-100,000	0	-100,000	

5. 普及事業管理（公益目的事業 2.9）

(1) 計画概要

- 普及ネットの運営
- 普及に関わる JCBL 公認資格制度確立のための制度設計（年度中の制度確立と現行ブリッジインストラクター制度からの移行を目標にする）
- ブリッジインストラクター登録管理と登録証発行（3月）

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	45,000	-45,000	福岡ブリッジプラザの独立に伴い、同プラザ分が減
経常費用	30,635,300	32,631,333	-1,996,033	
経常増減	-30,635,300	-32,586,333	1,951,033	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
普及ネットプロジェクト	縮小	経常収益	0	0	0	新規事業として、公認資格制度確立のための制度設計
		経常費用	88,000	112,000	-24,000	
		経常増減	-88,000	-112,000	24,000	
管理費 普及事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	30,547,300	30,012,233	535,067	
		経常増減	-30,547,300	-30,012,233	-535,067	
管理費 福岡 BP 普及	中止	経常収益	0	45,000	-45,000	普及事業から独立
		経常費用	0	2,507,100	-2,507,100	
		経常増減	0	-2,462,100	2,462,100	

III. 国際交流事業（公益目的事業 3）

【平成 25 年度の計画概要】

(1) 計画概要

ブリッジは世界に多くの競技人口を有していることから、ブリッジを通じた国際交流を図ることは、国際親善・国際相互理解促進にとって有意義である。このため、(1)国際競技会の主催、(2)海外競技会への参加支援及び(3)国際的競技団体との交流の 3 事業を行う。

本年度特記事項：

- チャイニーズ・タイペイの実業家である葉氏が主催する Yeh Bros 杯の日本での開催に協力し、運営を担当する。
- これまで APBF 選手権はオープン、ウィメン、シニア、ジュニア、ヤングスターの 5 部門をまとめて開催されてきたが、6 月に香港で開催される APBF 選手権は、オープン、ウィメン、シニアの 3 部門のみの開催で、ユース（ジュニア及びヤングスター）は 8 月に中国で開催される。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	9,125,000	12,099,000	-2,974,000	前年度は APBF 福岡大会を開催
経常費用	32,911,700	79,492,150	-46,580,450	
経常増減	-23,786,700	-67,393,150	43,606,450	

(3)事業別総括表

事業名	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
3.1 国際競技会の主催	経常収益	8,585,000	11,379,000	-2,794,000	前年度は APBF 福岡大会を開催
	経常費用	11,581,200	59,334,000	-47,752,800	
	経常増減	-2,996,200	-47,955,000	44,958,800	
3.2 国際競技会への参加費用助成	経常収益	540,000	720,000	-180,000	
	経常費用	15,634,700	14,554,600	1,080,100	
	経常増減	-15,094,700	-13,834,600	-1,260,100	
3.3 国際的競技団体との交流	経常収益	0	0	0	
	経常費用	1,349,000	1,256,750	92,250	
	経常増減	-1,349,000	-1,256,750	-92,250	
3.9 管理費	経常収益	0	0	0	
	経常費用	4,346,800	4,346,800	0	
	経常増減	-4,346,800	-4,346,800	0	

【事業別計画】

1. 国際競技会の主催（公益目的事業 3.1）

(1) 計画概要

① Yeh Bros 杯開催協力

Yeh Bros 杯の日本開催に協力し、チャイニーズ・タイペイとの国際交流を深めるとともに、相互協力・連携の強化を図る。NEC ブリッジフェスティバルと連続する形で開催することにより、近年減少傾向にある NEC ブリッジフェスティバルの参加者数を増やすなどのシナジー効果や費用対効果の向上をめざす。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	8,585,000	11,379,000	-2,794,000	
経常費用	11,581,200	59,334,000	-47,752,800	
経常増減	-2,996,200	-47,955,000	44,958,800	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)2012APBF コン gress福岡大会	中止	経常収益	0	11,379,000	-11,379,000	平成 24 年度単発事 業
		経常費用	0	59,334,000	-59,334,000	
		経常増減	0	-47,955,000	47,955,000	
(2)Yeh Bros 杯	新規	経常収益	8,585,000	0	8,585,000	平成 25 年度単発事 業
		経常費用	11,581,200	0	11,581,200	
		経常増減	-2,996,200	0	-2,996,200	

2. 国際競技会への代表派遣（公益目的事業 3.2）

(1) 計画概要

① 日本代表選抜

- 日本代表選抜試合を開催し、平成 26 年開催の APBF 選手権に派遣するオープン、ウイメン各 1 チームの日本代表を選抜する。参加者には、交通費と宿泊費を助成する。
- 平成 26 年には第 2 回アジアカップの開催が計画されており、アジアカップが開催される場合は APBF 選手権が開催されない可能性がある。この場合、選抜された日本代表は第 2 回アジアカップへ派遣する。
- 代表チームの国内競技会参加費及び練習会の費用を助成する。

② 国際競技会派遣

- APBF 選手権
役員、代表委員、事務局員の派遣を行う。
- 世界選手権
APBF 選手権で世界選手権の出場資格を得た場合には、バリ（インドネシア）で開催される世界ブリッジチーム選手権に日本代表チームを派遣する。
- 日本代表のユニフォームを作成、代表選手に支給する。

③ 国際競技会派遣（ユース）

本年度は以下の競技会への参加を支援する。

- APBF 選手権（グレード I）：APBF ユース選手権
- 世界ユースオープン選手権（グレード II）

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	540,000	720,000	-180,000	
経常費用	15,634,700	14,554,600	1,080,100	
経常増減	-15,094,700	-13,834,600	-1,260,100	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)日本代表選抜	拡大	経常収益	540,000	720,000	-180,000	本年度より会場費が発生
		経常費用	1,394,000	830,000	564,000	
		経常増減	-854,000	-110,000	-744,000	
(2)国際競技会派遣 APBF 選手権	復活	経常収益	0	0	0	コンGRES(助成なし)→ 香港開催による経費増
		経常費用	2,412,200	0	2,412,200	
		経常増減	-2,412,200	0	-2,412,200	
(2)国際競技会派遣 世界選手権	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	6,462,000	8,016,000	-1,554,000	
		経常増減	-6,462,000	-8,016,000	1,554,000	
(2)国際競技会派遣 日本代表ユニフォーム	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	840,000	840,000	0	
		経常増減	-840,000	-840,000	0	
(3)ユース育成プログラム APBF 選手権派遣	拡大	経常収益	0	0	0	
		経常費用	2,464,500	1,000,000	1,464,500	
		経常増減	-2,464,500	-1,000,000	-1,464,500	
(3)ユース育成プログラム 世界選手権派遣	休止	経常収益	0	0	0	本年度は開催なし
		経常費用	0	3,268,600	-3,268,600	
		経常増減	0	-3,268,600	3,268,600	
(3)ユース育成プログラム 世界ユースオープン選手権/ 大学選手権	新規	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,462,000	0	1,462,000	
		経常増減	-1,462,000	0	-1,462,000	
(3)ユース育成プログラム その他国際競技会参加支援	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	600,000	600,000	0	
		経常増減	-600,000	-600,000	0	

3. 国際的競技団体との交流（公益目的事業 3.3）

【事業別計画】

(1) 計画概要

コントラクトブリッジを通じた国際交流を促進するため、本年度は以下の事業を実施する。

- ① 世界同時大会への参加
 - ・平成 25 年 6 月 7～8 日に開催が予定される世界同時大会開催に参加協力する。
- ② APBF 同時大会への参加
 - ・平成 25 年 11 月～平成 26 年 4 月まで開催が予定されている APBF 同時大会開催に参加協力する。
- ③ 海外競技会に参加する会員・会友の支援と海外への情報提供・収集
 - ・ACBL との提携の継続・強化：ACBL 競技会の開催予定情報を提供する。
 - ・APBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
 - ・WBF 加盟国・地域における競技会開催情報を提供する。
- ④ JCBL ウェブサイトの活用

連盟サイトを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連サイトから情報を収集し、会員に提供する。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	1,349,000	1,256,750	92,250	
経常増減	-1,349,000	-1,256,750	-92,250	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
国際的競技団体との交流	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,349,000	1,256,750	92,250	
		経常増減	-1,349,000	-1,256,750	-92,250	

4. 国際交流事業管理（公益目的事業 3.9）

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	0	0	0	
経常費用	4,346,800	4,346,800	0	
経常増減	-4,346,800	-4,346,800	0	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
管理費 国際交流事業部	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	4,346,800	4,346,800	0	
		経常増減	-4,346,800	-4,346,800	0	

IV. 収益事業等

【平成 25 年度の計画概要】

(1) 計画概要

公認事業は競技会事業部が、販売事業は事務局が担当する。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	149,753,000	148,123,000	1,630,000	
経常費用	33,181,900	34,160,330	-978,430	
経常増減	116,571,100	113,962,670	2,608,430	

(3)事業別総括表

事業名	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
1 公認	経常収益	129,573,000	128,083,000	1,490,000	
	経常費用	14,443,400	15,465,830	-1,022,430	
	経常増減	115,129,600	112,617,170	2,512,430	
2 商品販売	経常収益	20,180,000	20,040,000	140,000	
	経常費用	18,738,500	18,694,500	44,000	
	経常増減	1,441,500	1,345,500	96,000	

【事業別計画】

1. 公認（収益事業等 1）

(1) 計画概要

「公認クラブ規則」に定める条件を満たしブリッジの普及に努める団体を、公認クラブ及び公認ブリッジセンターとして承認し、その活動を支援するとともに、同規則その他当連盟の定める諸ルールに基づいてこれらの団体が開催する競技会を公認競技会として承認する。公認競技会における各競技者の成績は、公式な成績としてマスターポイントを発行し、記録・管理する。

公認事業関連業務の見直しを行い、システム化と効率化を図る。

「センター協議ワーキンググループ」を中心に公認ブリッジクラブ及びブリッジセンターとの協議を継続し、公認料制度の見直しを含め、ブリッジの普及と発展に資する公認制度の在り方を検討していく。

収益事業等 1.1 競技会の公認

① クラブ・センター主催競技会の公認

- ・ ナショナル、リジョナル、セクショナル、ローカル、CCG、IMP リーグ、ウィークリーゲームを公認する。
- ・ シニア会友及びユース会友に対する競技会参加料割引を実施する。

② マスターポイントの認定・管理

- ・ マスターポイントの集計・発行及びマスター位の認定を行う。

収益事業等 1.2 ブリッジクラブの公認と育成

① ブリッジクラブの公認と育成

- ・ ブリッジクラブ及びブリッジセンターを公認する。
- ・ 浜松リジョナルにあわせて地方クラブ会議を開催し、地方クラブの意見やニーズの把握に努める。また、会議に出席する地方クラブ代表に対する参加費用の支援を行う。

- 「常設会場運営のためのサービス・ガイドライン」の運用、「ゲーム環境に係わるサービス向上のための意見書」対応、「緊急連絡システム」の運営、AED 設置及びバリアフリー工事支援事業を行う。

② 競技会開催支援

- 地方リジョナル開催時のディレクター派遣費用の支援を行う。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	129,573,000	128,083,000	1,490,000	
経常費用	14,443,400	15,465,830	-1,022,430	
経常増減	115,129,600	112,617,170	2,512,430	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
(1)競技会の公認	前年度並み	経常収益	129,573,000	128,083,000	1,490,000	リジョナルの一部を移管するが、テーブル数としてはほぼ前年並みと予想
		経常費用	13,216,400	13,248,830	-32,430	
		経常増減	116,356,600	114,834,170	1,522,430	
(2)コントラクトブリッジクラブの公認と育成	縮小	経常収益	0	0	0	AED 購入及びバリアフリー工事助成事業の予算を実態に合わせて減額
		経常費用	1,227,000	2,217,000	-990,000	
		経常増減	-1,227,000	-2,217,000	990,000	

2. 商品販売（収益事業等 2）

(1)計画概要

コントラクトブリッジに関する書籍、競技用具等の販売を行う。在庫管理や販売方法など関連業務の効率化を図る。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	20,180,000	20,040,000	140,000	
経常費用	18,738,500	18,694,500	44,000	
経常増減	1,441,500	1,345,500	96,000	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
商品販売事業	前年度並み	経常収益	20,180,000	20,040,000	140,000	
		経常費用	18,738,500	18,694,500	44,000	
		経常増減	1,441,500	1,345,500	96,000	

V. 管理部門

【平成 25 年度の計画概要】

【事業別計画】

(1) 計画概要

1. 会員・会友

① 会員・会友向け刊行物の発行

- 会員・会友向けの以下の刊行物を編集・発行する。
『JCBL BULLETIN』（会報） 隔月刊年 6 回奇数月 1 日に発行、部数：7,400 部
『JCBL HANDBOOK』 毎年 5 月 1 日発行、部数：7,400 部

② JCBL ライブラリーの運営

- 通常の新刊書に加えて、欠落していた図書の追加購入を行う。

③ キャンペーン

- 会員・会友向けに以下のキャンペーンを実施する。
入会キャンペーン 入会者及び紹介者に QUO カードと粗品を進呈
ビギナーズ杯招待 初心者プレイヤーに対する競技会参加奨励策として実施。
NEC ブリッジフェスティバルの普及イベントとして開催されるビギナーズ杯に抽選で招待する。

2. 組織運営

- 事務局業務の改善に引き続き取り組む。組織運営体制及び事務局の人員体制の変更を勘案して、業務の効率化を推進する。
- 内部統制力の向上のため、連盟内システムの見直しと改善を図る。
- 福岡ブリッジプラザは平成 25 年 4 月より連盟から独立して地元有志グループが運営していくこととなった。今後 2 年程度は競技会公認料の免除などの形で運営を支援する。
- 九州支部は従来の組織を解消し、普及活動は福岡ブリッジプラザ内で行う。

3. 企画委員会・センター協議ワーキンググループ

- 企画委員会のミッションは、毎年度の予算及び事業計画の策定のほか、10 年後の連盟及び会員・会友のあり方を想定して事業部ごとの中期計画を策定することと、連盟のさまざまな制度の見直しと改革である。
- 昨年度は、普及事業部とともに「普及事業中期計画」の策定を行い、平成 25 年度から実施することとなる。他の事業についても、必要に応じて中期計画の立案を行う。
- 企画委員会の下に設置した「会員・会友制度検討ワーキンググループ (WG)」において前年度より進めている会員・会友制度の簡素化と競技会参加料割引制度の廃止案の検討を継続し、わかりやすい会員・会友制度への改定と高齢化社会に対応可能な事業基盤の構築をめざす。平成 25 年度内に WG の検討結果をもとに、企画委員会から理事会に具体案を提案する。
- 昨年度に、普及活動の拠点となるべき公認ブリッジセンターと連盟が定期的に協議をする場として、競技会事業部、事務局長とともに「センター協議ワーキンググループ (WG)」を発足させた。同 WG を通じて公認ブリッジセンターの代表者との協議を継続し、ブリッジの普及と発展に資する公認料制度の在り方とブリッジセンターの普及活動に対する連盟の支援方法を引き続き検討する。協議内容については、平成 25 年度中に結論を出し、順次実施する。

(2)収支総括	25 予算	24 予算	前年差	備考
経常収益	22,095,000	24,478,500	-2,383,500	
経常費用	44,875,050	51,635,314	-6,760,264	
経常増減	-22,780,050	-27,156,814	4,376,764	

(3)個別事業一覧表

事業名	方針	区分	25 予算	24 予算	前年差	備考
1. 会員・会友 (1)刊行物の発行	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	3,558,000	3,573,000	-15,000	
		経常増減	-3,558,000	-3,573,000	15,000	
1. 会員・会友 (2)JCBL ライブラリー	前年度並み	経常収益	0	0	0	
		経常費用	350,000	350,000	0	
		経常増減	-350,000	-350,000	0	
1.会員・会友 (3)キャンペーン	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	1,000,550	2,548,580	-1,548,030	
		経常増減	-1,000,550	-2,548,580	1,548,030	
2.組織運営 (1)管理部	縮小	経常収益	22,095,000	23,698,500	-1,603,500	
		経常費用	39,566,500	40,084,434	-517,934	
		経常増減	-17,471,500	-16,385,934	-1,085,566	
2. 組織運営 (2)九州支部支援事業	縮小	経常収益	0	0	0	
		経常費用	400,000	680,000	-280,000	
		経常増減	-400,000	-680,000	280,000	
2. 組織運営 (2)九州支部運営	休止・中止	経常収益	0	780,000	-780,000	
		経常費用	0	4,399,300	-4,399,300	
		経常増減	0	-3,619,300	3,619,300	